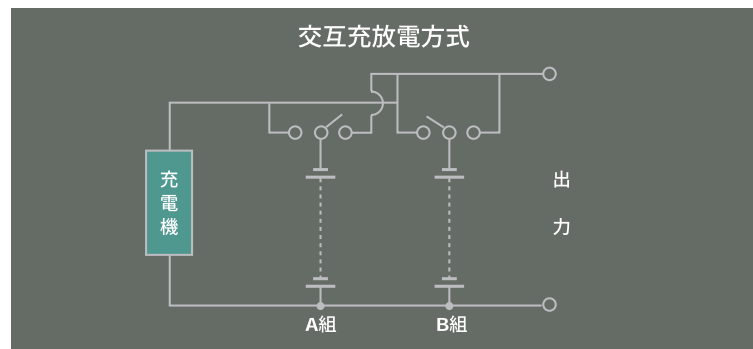


1次電池方式

電話交換用の電源である1次電池を採用した方式であり、電話交換が始まった1890年から導入した。構造が簡単であることや電話システムの規模が小さかったことから、当時は有効に機能した。

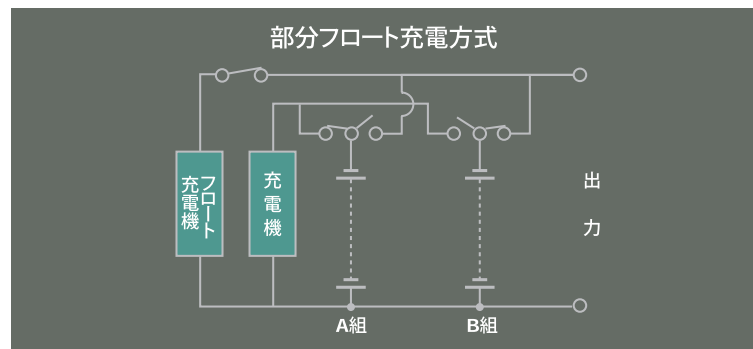
交互充放電方式

2組設置した蓄電池を交互に充放電する方式であり、1日放電した充電池を翌日に充電する。1898年に通信用電源として鉛蓄電池を採用すると同時に導入した。



部分フロート充電方式

昼間にフロート充電機から充電して夜間に放電する方式であり、1939年頃から導入した。交互充電方式より蓄電池容量を半減させても同容量の電力を放電できるという利点があった。



全フロート充電方式

昼夜を問わず蓄電池に充電しながら、蓄電池からの電力供給も同時に行う方式であり、1954年に導入した。

部分フロート充電方式に比べて、蓄電池の寿命を飛躍的に延ばすことができたことは、通信用電源として画期的なことであった。

